

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

11月号

Yamaga Medical Center



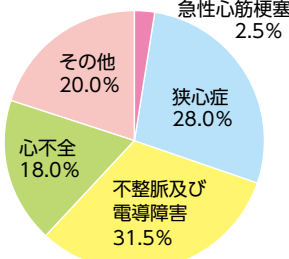
発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

心疾患の患者さんに対するリハビリを開始しました

厚生労働省の「令和2年患者調査」によると、心疾患別に占める各患者割合は、狭心症：28.0%、不整脈及び電導障害：31.5%、心不全：18.0%、その他：20.0%となっております。

心疾患に占める各患者割合

※高血圧性のものを除く



出典:厚生労働省「令和2年患者調査」より作成

心大血管疾患リハビリテーションの効果は、これまでの研究によって多岐にわたり証明されています。具体的には、虚血性心疾患(心筋梗塞や狭心症)の患者さんがリハビリを行うことにより、行わなかった場合に比べて心臓病による死亡率が26%低下し、入院のリスクが18%低下します。

また、心不全の患者さんがリハビリを行うことにより、行わなかった場合に比べてあらゆる入院が25%減少し、心不全による入院が39%減少することが証明されています。さらに、リハビリに参加することにより、生活の質(Quality of life)が改善し、毎日をより快適に過ごすことができるようになります。その他、心大血管疾患リハビリテーションには以下のような効果があります。

- ・運動能力・体力の向上により、日常生活で心不全の症状(息切れなど)が軽くなる
- ・筋肉量が増えて楽に動けるようになり、心臓への負担が減る
- ・心臓の機能が良くなる

- ・血管が広がりやすくなり、身体の血液循環がよくなる
- ・動脈硬化が進みにくくなり、既にできている動脈硬化性プラーク(血管の壁の盛り上がり)が小さくなる
- ・血管が広がって高血圧が改善する
- ・自律神経が安定して不整脈の予防になる



世界保健機構 (WHO) によると、「心臓リハビリとは、心疾患患者が患者自身の努力により、地域社会においてできるだけ正常な地位(職業)を回復し活動的に暮らすことを目指して、可能な限り良好な身体的・精神的・社会的状態を得るために必要とされる行動の総和である。」とされています。

上記事項等を踏まえ、当センターでは心疾患の患者さんに対するリハビリの必要性を強く感じ、11月より入院患者さんに対し心大血管疾患リハビリテーションを実施することとなりました。

(文責：リハビリテーション科 理学療法士長 上野 高弘)

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

- 心疾患の患者さんに対するリハビリを開始しました… P 1
- 救命処置研修でチーム力を上げる～ALS研修について～ P 2
- 部門紹介：手術室・中央材料室 …… P 2
- 医療最前線 (161) …… P 3
- 第59回公開特別講演会のご案内 …… P 3
- 外来担当医表 (11月) …… P 4

救命処置研修でチーム力を上げる～ALS研修について～

当センターの看護部では、心肺停止時にAEDを用いて行う心肺蘇生法の一次救命処置（BLS）研修を毎年行っています。また本年からは、救命処置技術の更なる向上を目的とし、二次救命処置（ALS）研修を開催しています。ALSとは、病院等の医療機関や救急救命士が行う心肺蘇生法で、胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸と共に、気管挿管などの確実な気道確保と高濃度酸素の投与、電気的除細動、静脈路確保と薬物投与などを行う高度な処置になります。このALS研修を通し、系統的アプローチに基づいた急変患者への対処やチーム蘇生の方法を学び、特に突然の心停止に対する最初の10分間に行う適切な心肺蘇生法の修得を目標として



います。研修会では、はじめにALSの基本的な知識と技術を学習し、その後シナリオを用いたシミュレーショントレーニングを行います。BLSやALSの手順について理解し実践することで、それぞれの役割と相互理解を深め、チーム蘇生の質の向上につなげていきます。

当センターのALS研修は、半日の研修日程で実技を中心とした内容で、これまでに計3回行い10名の看護師の参加がありました。研修後のアンケートでは「もっと時間が欲しかった」との意見が多く、高い学習意欲をもって研修に取り組むことが出来ていると感じました。現在はまだ指導者の数が十分でなく、1回の研修で指導できる参加者数が限られているためALS研修と合わせて指導者を養成するための取り組みも行っています。

今後も研修を継続開催して救命処置技術の維持・向上を図り、さらに対象者を看護師以外にも拡大し、当センターのチーム力向上につなげていきたいと考えています。

（文責：救急看護認定看護師

副看護部長 久米 隆道）

部門紹介：手術室・中央材料室

当センターの手術室・中央材料室は、麻酔科医：1名 看護師：9名 准看護師：1名 ケアワーカー：1名（第2種滅菌技士） 臨床工学士：3名が勤務し、外科・整形外科の手術が行われています。

外科は、腹腔鏡で行われる症例が多く、外科手術症例の約60%を占めています。整形外科では、人工関節置換術や骨接合術などが行われています。高齢者の転倒による大腿骨の骨折が多く、整形外科手術症例の約33%を占めています。

中央材料室では、院内の手術や検査、処置に使用する医療器材を適正に管理し、安全で良質な医療を行うため器械の用途に応じた適切な洗浄・消毒・滅菌・供給を行っています。滅菌技士が勤務しており、確実な知識と技術により安心して使用できる器材を提供できるよう日々業務に取り組んでいます。



多くの患者さんは不安や緊張の中で手術を

受けることとなります。手術前に患者さんとご家族へ、麻酔科医が診察・説明を行います。その後手術を担当する看護師が手術室への入室から退室までの流れや、疑問に思われていることについて説明を行うことで不安の軽減に努めています。術後訪問では患者さんから、手術前に麻酔科医師・担当看護師に説明を聞き手術のイメージができたこと、当日は顔見知りの看護師が迎えてくれたことで不安も軽減されたとの言葉をいただいています。



近年、手術を受ける患者さんの高齢化が進み、麻酔や手術に対するリスクも高くなっています。今後もスタッフ一同、知識・技術を習得し、安心・安全で温かな手術室看護が提供できるよう努めていきたいと思ひます。

（文責：手術室・中央材料室看護部長 矢野 悦子）

医療最前線 (161)



潰瘍大腸炎について

消化器内科医
中垣 貴志

潰瘍性大腸炎は大腸に炎症が生じて大腸の粘膜が傷つき、腹痛や下痢、粘血便などの症状が現れる原因不明の病気です。若年者で発症することが多く、長期にわたって治療が必要となるため、Quality of lifeを低下させるだけでなく、就学、就労や結婚、出産など社会活動へ支障をきたすことが問題となります。以前は頻度の低い病気とされてきましたが、現在患者数は推計22万人とされ、今後とも増加していくことが予測されています。

現時点では完治させる治療法はありませんが、症状のない「寛解」状態を目指し、その状態を維持することで通常の日常生活を送ることを治療の目標としています。

しかしながら多くの患者さんでは寛解と再燃を繰り返してしまいます。このような経過をたどるタイプを「再燃寛解型」といいますが、寛解にいたらず半年以上にわたり病気の勢いが強い活動期のままである「慢性持続型」をあわせれば潰瘍性大腸炎の約80%を占めています。また発症後に一度緩解すると再燃せず経過する「初回発作型」についても将来

的には再燃緩解型に移行する可能性は高いとされています。

潰瘍性大腸炎は罹病期間によって大腸がんのリスクが高くなることが知られており、診断からの経過年数が10年で1.6%、20年で8.3%、30年で18.4%と年数が経過するほど高くなる傾向があるという欧米からの報告があります。分子学的機序にまだ不明な点があり研究が進められていますが、大腸癌の発生と進行が慢性炎症によって促進されることはわかっており、潰瘍性大腸炎による炎症を抑えることが大腸癌の発癌予防につながる可能性があり、どの臨床経過のタイプの潰瘍性大腸炎でも適切な治療を継続することが必要です。

治療方法としては従来の5ASA製剤やステロイド剤、免疫調節薬、抗TNF α 製剤に加えて近年では腸管免疫のメカニズムに基づいた新規の作用機序の薬剤として2017年にIL12/23阻害剤が、2018年にはヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤や抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリン抗体製剤が、2023年にはIL12/23阻害剤や抗IL-23P19抗体製剤といった新規治療薬も保険で使用可能になり、投与方法も静脈注射や皮下注射、経口投与と選択肢が増えました。

これまでに潰瘍性大腸炎と診断されて従来の治療でも症状が持続、悪化している方がおられましたら、当センター消化器内科にご相談ください。今後ともよろしくお願いいたします。

第59回公開特別講演会のご案内

(日本医師会生涯教育講座 1単位)

取得カリキュラムコード番号・コード名
0. 最新のトピックス・その他

下記により第59回公開特別講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典
山鹿市病院事業管理者 別府 透

記

日時：令和6年11月8日(金) 19:00~

形式：ハイブリッド方式(オンライン参加 or 会場参加)

会場：オンライン参加 / Zoom ミーティング

会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター

演題：「産婦人科医療の現状と課題」

司会：山鹿市民医療センター 事業管理者 別府 透 先生

演者：熊本大学大学院 生命科学研究部

産婦人科学分野 教授 近藤 英治 先生

参加費：無料

【参加要領】

下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

(参加URL) : <https://zoom.us/j/93022624257>

(参加QRコード) ⇒

ミーティング ID : 930 2262 4257

パスコード : 350875



※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。

※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。

お問合わせ先 📍 山鹿市民医療センター

地域医療連携室 水田、西田

TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会

山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表

11月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※後藤 由比古	※赤池 公孝	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹野 洋司	本原 利彦	竹野 洋司 中垣 貴志	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 中山 智子	中山 智子 清水 博	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 中原 達秀 井手 淳之介	工藤 智志 中原 達秀 井手 淳之介	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河隆敏 / 増田稔郎 辛島龍一 / 織田枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 増田 稔郎
乳腺外科	—	※富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	—	※原田 成美	—	※神波 大己 教授	—
小児科	小澄 将士	小澄 将士(午前) ※石井 真美(午後)	小澄 将士 (午後：予防接種)	小澄 将士(午前) ※石井 真美(午後)	小澄 将士
	*小児科の午後は、16:00受付終了となります				
耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	—	非常勤医師	非常勤医師	—	—
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※片渕美和子(午後) (受付13:00~16:30) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師 (午前)
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週：担当医 偶数週：吉岡明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00
 ◎当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。
 ※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

特殊・専門外来【予約制】

11月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	※宮本 英明	毎週 金曜 (がん薬物療法専門医)	
禁煙外来	坂田 和子	毎週 月曜 (午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜 (午後)	
小児科予防接種	小澄 将士	毎週 水曜 (受付時間13:30~16:00)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜 (午後)	Bブロック
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜 (午後)	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。
 ◎急患の場合は、この限りではありません。
 ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。
 ◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター
 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
 TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420
<http://yamaga-medical-center.jp>